

～未来の子供たちへ、豊かな自然を届けるために～
植樹10周年記念「中国・内モンゴル（林西県）植樹ツアー」
ボランティア参加者の募集を開始
渡航日程：2014年9月8日（月）～9月12日（金）

株式会社山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 代表・山田英生）は、2014年9月8日（月）から9月12日（金）の期間に実施する、中国・内モンゴル＜林西（リンシー）県＞での植樹活動に参加していただけるボランティアの募集を開始いたしました。

当社では毎年、社員やボランティアによる国内をはじめ、ネパール・中国での植樹活動を実施しています。1999年の植樹開始から2013年までで、計202万5,278本（国内：125,159本、中国：145万328本、ネパール：44万9,791本）の植樹を行って参りました。

林西県での植樹10周年にあたる本年度は、この10年間で大きく成長した木々をご覧いただきながら、未来に向けて新たな木を植える4泊5日の記念植樹ツアーを開催いたします。

現地では、植樹活動の第一人者であり、土地本来の風土に基づく植樹方法“宮脇式植樹”を提唱する横浜国立大学名誉教授 みやわき あきら 宮脇昭先生と、同大学名誉教授 ふじわら かずえ 藤原一繪先生のご指導のもと、3万本の木を植えていただきます。ツアーではお二人の先生方による、植樹や森づくりに関しての講演会に参加していただける他、林西県関係者による歓迎夕食会も開催されます。



植樹前の林西県（2004年撮影）



植樹から10年後の植樹地（2014年6月撮影）



モンゴルの大草原「ホイトンシロ」
などへの終日観光付

10年間でここまで育ちました

植樹翌日は、草原地区で有名なシリンホトへの終日観光を予定しています。シリンホト市最大の景勝地である「九曲湾」や、大草原「輝騰錫勒（ホイトンシロ）天然植物園」、モンゴル族の民芸品を販売する「民族商品市場」などへご案内いたします。

つきましては、当植樹活動への参加者の募集を開始いたします。未来の子供たちに豊かな自然を届けるため、少しでも多くの方に当活動にご参加いただければ幸いです。

【2014年度 中国・内モンゴル（林西県）植樹 ボランティア活動概要】

期間：2014年9月8日（月）から9月12日（金）＜4泊5日＞

費用：①149,000円＜成田空港発着＞②147,000円＜関西空港発着＞（航空機代・宿泊費・食事代込）

※サーチャージ代、空港諸税等、ビザ申請費用、空港までの交通費は含まれません。

申込締切：2014年8月4日（月）

※ボランティア内容の詳細や申込方法に関しては、同封資料をご確認ください。

◇本件に関するお問い合わせ◇

株式会社 山田養蜂場 文化広報室 関 (ts0975@yamada-bee.com)

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194 TEL:0868-54-1906（月～金 9:00～17:30、土日祝除く）

FAX:0868-54-3346 ホームページ: http://www.3838.com

山田養蜂場の植樹活動について

山田養蜂場の植樹活動は1998年にネパールで開催された国際養蜂会議にさかのぼります。

当社代表の山田英生が会議に出席した際、ネパールでの大量の森林伐採や、それに伴う大規模な土砂崩れが発生している実態を目のあたりにしました。

当社の原点は、自然とともに生きる養蜂業です。「自然との調和」を理念に掲げる山田養蜂場では、未来の子供たちに豊かな自然環境をそのまま残していく責任があると考えています。

そのため、ネパールでも自分たちで何かできないかと考え、まず衣類等の送付を行いました。しかし、物やお金をただ送るだけの活動は、かえって彼らの自立を妨げることになるかもしれません。

本当の意味での自立支援活動に繋がりたい。

そうした思いの下、翌1999年、カトマンズで日本語学校を営むシャム氏との出会いをきっかけに、700本の植樹を行ったのがネパールでの植樹活動の始まりです。

2001年には砂漠化が進む中国での植生調査を横浜国立大学と共同で開始。2004年より植樹活動を実施してまいりました。

通信販売を主軸としている当社では、企業活動を継続していく上で、紙の消費は避けられないのが現状です。当時、社内の紙の使用量を計算したところ、概算で年間1,500トンの紙を使用していることが分かりました。

ここから換算して、毎年3,000本以上の木を植えていく必要があると考え、植物生態学の権威であり、植樹のスペシャリストである横浜国立大学名誉教授宮脇昭先生と、同大学名誉教授 藤原一繪先生にご指導いただきながら、現地の植生に合った木々を植えています。(宮脇式植樹)

当社の植樹活動

年	参加人数	内モンゴル自治区			ネパール	国内
		フフホト市・ 林西県	トフトサキ市 生態園区建設	安徽(アンキ)省		
1999	—	—	—	—	700本	—
2000	—	—	—	—	15,000本	—
2001	—	植生調査	—	—	35,000本	30,547本
2002	—	植生調査	—	—	30,000本	—
2003	—	植生調査	—	—	50,000本	—
2004	300名	20,000本	1,030,028本	—	44,000本	63,900本
2005	300名	20,000本	5,150本	—	10,000本	—
2006	300名	50,000本	5,150本	—	13,654本	—
2007	270名	50,000本	—	—	17,234本	4,730本
2008	280名	50,000本	—	—	21,000本	—
2009	240名	50,000本	—	—	50,660本	—
2010	290名	50,000本	—	—	50,660本	15,982本
2011	300名	—	—	40,000本	50,530本	—
2012	400名	—	—	40,000本	60,852本	10,000本
2013	400名	—	—	40,000本	501本	—
合計	3,080名	1,330,328本		40,000本	449,791本	125,159本

植樹総合計:2,025,279本

みやわき あきら

※宮脇昭先生 プロフィール



1928年、岡山県生まれ。横浜国立大学名誉教授、(財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター長。ドイツ国立植生園研究所で潜在自然植生理論を学び、世界を舞台に国内外1,700ヶ所以上に、合計4,000万本を超える植樹を行ってきた。その土地本来の樹種「潜在自然植生」に基づく植樹を実践、指導。また今回の震災を受けて、植樹による緑の堤防づくりを提唱。

1991年「日本植生誌」の完成で朝日賞受賞

1992年 紫綬褒章受章

2006年 ブループラネット賞受賞

2014年「第5回 KYOTO地球環境の殿堂」殿堂入り

ふじわら かずえ

※藤原一繪先生 プロフィール



1944年生まれ。横浜国立大学卒業。フランス中央研究機関(CNRS)、給費研究員(リール大学)、横浜国立大学環境科学研究センター助手などの経歴をもつ。現在、横浜国立大学名誉教授、横浜市立大学特任教授。宮脇昭先生と共に国内外での森作りを指導。

著書に「混源植物」「環境問題を考える」(共著)「東南アジアの植物と農林業」(共著)「日本植生誌」全10巻(共著)など